

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4673200079号		
法人名	社会福祉法人 正栄会		
事業所名	グループホーム ふるさとの家郡山		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 東俣町 3853番地 (電話) 099-298-8118		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年8月6日	評価確定日	平成21年8月22日

【情報提供票より】 (21年 7月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤6人 非常勤5人	常勤換算12.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(日額)	100 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		600 円

(4) 利用者の概要 (7月 23日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	79歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上片平医院	みらい歯科医院
---------	-------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の高台に住宅地として開発された地域に、高齢者から子供までを含む、総合的な施設を展開している法人が開設したホームである。ケアに精通した管理者を中心に、職員は笑顔と傾聴に心がけ、入居者中心のきめ細かな支援をしている。恵まれた自然の利を活かした支援により入居者は馴染み深い生活をしている。自治会・老人会・子供会等の多くの方々との関わりを持つことのできる環境に恵まれて、地域の協力を得て、地域に密着したサービスを積極的に展開している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	研修計画を作成して、外部研修・内部勉強会に参加し、研修報告をして研修内容を共有し、知識や技術の向上に努めるなど、課題は改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義や目的をふまえて、全職員で自己評価に取り組んでいる。それぞれ課題目標を掲げて話し合い改善に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的に開催されている。避難訓練や行事への参加の呼びかけ、広報紙の回覧配布などで地域住民との絆が深まり、ホームの理解者や応援者が増えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は面会時や行事交流会時・プラン変更時に要望や意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけており、出された要望等はミーティングで話し合い対応に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、地域の敬老会・あいご会の行事や遠足・グランドゴルフ・文化祭作品展示に出品・映画鑑賞等に参加している。またボランティア来訪や小学生の見学・体験学習など密度の濃い交流がなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人達との絆を重視した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を説明文書・ホール・玄関・職員トイレに明記している。管理者・職員は勉強会や日頃のケア時に理念を確認して共有に努め、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の敬老会・あいご会の行事や遠足・グランドゴルフ・文化祭作品展示に出品・映画鑑賞等に参加している。また、ボランティア来訪や小学生の見学・体験学習など、密度の濃い交流がなされている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的をふまえて、全職員で自己評価に取り組んでいる。それぞれ課題目標を掲げて、話し合い改善に取り組むサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。避難訓練や行事への参加の呼びかけなどの意見が出されている。また、会議を通して、広報誌の回覧配布などで地域住民との絆が深まりホームの理解者や応援者が増えるなど、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に利用者の支援状況や事務手続きなどを通じて、運営やサービスについて相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム便りと個別担当者による報告をしている。金銭管理は出納帳、領収書のコピーで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会時や行事交流会時・プラン変更時に家族が要望や意見を出しやすい雰囲気作りに心がけており、出された要望等はミーティングで話し合い対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者の馴染みの関係を重要視したケアを心がけており、ユニットの職員を固定化して、全職員が関わられるようにローテーションを組み馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成して外部研修会に参加し、研修報告を行い研修内容を共有し、知識や技術の向上に努めている。内部勉強会も行っている。また、資格取得希望者にも支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会に参加し、交流や情報交換をしている。また、事業所間でも交流をしており、職員の知識向上に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には自宅を訪問し、本人・家族と面談したり、主治医からも意見を聞いている。見学や通所を利用してもらうなどして、馴染みの関係を作り不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にしながら畑仕事・調理・裁縫・漬物づくり等、その人の特技や役割と一緒にする中で、教わったり感謝の言葉に励まされながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は個別にゆっくりと向き合い、話をする機会をつくっている。また、入居者の表情や言動を察知して記録し、職員間の情報共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに主治医・職員の意見を活かした利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、状態変化時・退院時の見直しをしている。個人記録・経過記録や業務日誌等で全体カンファレンスを行い評価結果を見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問・特別な外出・外泊などの支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し、また安心して継続できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所が支援できる指針が定められており、職員も共有している。また、家族等の同意も得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、勉強会をしている。入居者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意し取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の収穫や調理の下ごしらえ・下膳等、できる事を職員と一っしょに行いながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、一人ひとりの希望に応じて支援し、入居者の清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・折り紙・ぬり絵・計算ドリル・草取り・漬物づくり・梅ちぎり等、一人ひとりの得意な事、好きな事に力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物、芝生での外気浴の他、ドライブや行事見学等に出かけて、家に閉じこもらない支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りで、一人ひとりの行動を把握して鍵をかけずに自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練をしている。また、夜間を想定した避難訓練を地域の住民や家族参加のもと行っており、協力体制ができています。災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録して、個々に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて食事形態を変えて提供している。また、栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はすべて木造りでできており、暖かみがあり清潔で換気も良く、広い廊下や芝生の中庭まで手すりのついたスロープづくりになっており、外に出て外気浴を満喫できる環境作りである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・テレビ・タンス・化粧台・寝具・家族写真・足もみ器など、使い慣れた物品が持ち込まれ安心して生活を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。